
私立 型月学園演劇部

白夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私立 型月学園演劇部

【Nコード】

N3253P

【作者名】

白夜

【あらすじ】

型月ファンは絶対に見てはいけない！？

メルブラのキャラ達が送るほのぼの(?)学園ライフ!!

注意・ワラキアが特にヤバイ！

設定資料集（前書き）

はじめに、この小説には以下の点が含まれています。以下の点が苦手な方は携帯なら電源ボタンを、パソコンの人は戻るを連打してください。

- ・大規模キャラ崩壊
- ・ワラキアが特に酷い
- ・ロアも酷い
- ・皆仲良し
- ・キャラ設定で原作と名前や年齢が合わないキャラがいる

この小説は型月作品の二次創作です。原作とは一切の関係がありません。閲覧は自己責任でお願いします。

感想、誤字脱字がありましたら遠慮なくお知らせください。ただし、苦情、批判は一切受け付けません。

また、この小説は友人の天と共同で執筆しています。そのため私が執筆している他の小説以上に不定期更新となります。あらかじめご了承ください。

ここまでお読みになって

- ・全然オツケー！
- ・むしろ、バッチコイ！！
- ・何だって受け入れてやるさ！！

…という心の広い方は本文に進み、どうぞ楽しんでください。

以上、製作者、白夜&p・夫

設定資料集

ネコ「皆さんこんばんは。紳士淑女の社交場、GCNへようこそ！
グレートキャッツノベルズ

今宵は皆様に最高の“ギャグ”をお届けしたいと思います。

お相手は自称、型月界ヒロインのトップランナー……ネコ。上質なギヤグは賞味期限をありえないほどブツチした鯖缶だかツナ缶だか判らなくなつた猫缶に匹敵すると言われています。……おお、このフレイバーに香る生臭さ……たまらん。

おっと、失礼。私あまりの素晴らしさに意識が飛んでしまつてこゝろでしたにやにやにやにや」

「はい、OKです」

ネコ「天さ〜ん、今のOK?」

天「ええ、ガツチリです」

ネコ「ガツチリ？バツチリじゃなくて？ガツチリって…何が！」

天「気にしない気にしない。はい、報酬の猫缶です。1900年の
ヴィンテージものですよ」

ネコ「あ、どうも。これこれ、このかほりがなんともし……／＼／＼／」

天「では、私はこれからズエピア教授とお茶会ですので、失礼します」

白夜「了解しました。では、世界とキャラクターについて私が説明します」

型月市・日本の某所にある都市。

私立型月学園・型月市にある学園。初等部～大学部までのエスカレーター式の学校。生徒数は約3000人。特徴的な校則として『殺人さえ起こさなければOK』『生徒の武器携帯を認める』『私服での登校の許可』がある。

教職員紹介。

ゼルレッチ・シュバインオーグ

学園長兼大学部学長

備考・たぶん名前だけの登場。青崎姉妹の恩師らしい。

あおなぎ
「い」
蒼崎橙子

高等部校長兼数学教師

高等部の校長兼数学の教師。生徒からの人望は厚い。妹の青子とはあまり仲がよろしくない様子。彼女達の姉妹喧嘩で学校が半壊したことがある。

オシリスの砂

（中学部校長兼歴史教師

シオンの母親。「オシリスの砂」は愛称であり、本名は家族以外誰も知らない。基本無口。

あおさきあおし
蒼崎青子

初等部校長兼体育教師・演劇部顧問

橙子の妹、幼い頃の志貴に何か衝撃を与えた人物らしい。ちびっこから人気があるが、よく学校の備品を壊す。ちなみに本人は謝る気はなし。

ズエピア・エルトナム・オベローン（ワラキア）

物理学教師兼演劇部監督。シオンの父親（極度の親バカ）シオンを溺愛している。その行き過ぎた愛情表現のために娘からとてもウザがられている。学園七不思議の一つに『ワラキア夫妻の目を見た者は石化する』と、いうものがある。最近の悩みは娘が反抗期であること。

ネロ・カオス

生物学教師。多数の動物達を飼育している。あだ名は『動物園』

メカヒスイス

学校の警備及び用務員として日夜稼働している。そのため学校は鉄壁の守りを誇る。ちなみに量産型である。製作者は琥珀。量産型

のモデルとなったプロトタイプのみ言葉が流暢。

・生徒紹介

遠野志貴

高等部二年、演劇部所属。七夜シキの双子の弟。

幼い頃遠い血縁関係の遠野家に養子に出された。七夜との兄弟仲は良好。一級フラグ建築士でもありフラグクラッシャー。

性格はいたって温厚。武器を携帯している生徒の一人兄經由でナイフとか…間紅摩と知り合った。彼に話し掛けれる数少ない人物。レンと深い関係にあるらしい（別にいやらしい意味ではない）

七夜シキ

遠野志貴の双子の兄。高等部二年、風紀委員長。演劇部所属。

文武両道で、志貴とは違いどこか飄々としている。兄弟仲は良好。白レンと何か深い関係があるらしい（変な意味ではない）

軋間紅摩とは悪友。

アルクエイド・ブリュンスタッド

大学部三年、演劇部所属。

外国からの留学生。どこぞの貴族の姫君らしい。姉と二人で日本に来たらしいが、姉の姿を誰も見たことがない。志貴に気がある（色々狙っている）ため演劇部に入った。

運動神経は高く、性格も天真爛漫で親しみやすいため人気がある。ドレスを着ると性格が豹変する。

シエル・エレイシア

高等部三年、生徒会長、演劇部、宗教研究部、茶道部員。

カレーをこよなく愛する人。仙人が霞を食べるが如くカレーだけを食べて生活している。一部の生徒から『カレー先輩』や『カレーの悪魔』と呼ばれている。学園内でカレーの悪口を言うと何処からともなく現れてカレー洗脳を施していく。

彼女もまた遠野志貴に気がある。現在演劇部皆勤賞。武器を携帯している生徒の一人（黒鍵とか…）

噂だが、たまに彼女の背後に人影が見えるらしい。実家が教会。

シオン・エルトナム・アトラシア

高等部二年、演劇部兼化学研究部所属。

ズエピアとオシリスの娘。現在絶賛反抗期中（父親にのみ）である。常に学年トップの成績。

演劇部は父親に無理矢理入れられたので最初は反対していたが志貴をはじめとした仲の良い友人が殆ど入ったため今はそれ程でもない（父親は別）

武器を携帯している生徒の一人（銃とか…）

一時期リーズとの恋仲疑惑があった。

リーズバイフェ・ストリンドヴァリ

高等部三年、演劇部音響担当。

シオンとは幼なじみ。中性的な顔立ちであるため、男装の麗人と思われるたり性別を間違われることがよくある。昔、女子生徒に十人ほど告白され、全て丁重にお断りしたが、その際に「女でも構わない！」と言われたことがある。

普段は未来を向いているような顔をしているが実は何も考えてい

ない。成績は音楽は良いが他は全て平均。

武器を携帯している生徒の一人（聖盾とか…）

本人曰く握力が凄いらしい。

また、たまに部室にいつぱいあるネコアルクのぬいぐるみを満面の笑みで抱きしめている様子が見られる（超レア）

遠野秋葉

高等部一年、演劇部所属。

遠野志貴の義理の妹。遠野家当主。ツンデレでブラコン。

遠野家当主として、常にそれ相応の立ち振る舞いをしている。脚技が素晴らしい。

怒ると髪が紅くなる（燃やされる）

弓塚さつき（ゆみづかさつき）

高等部二年、演劇部所属。

志貴のクラスメート。ごく普通の少女だったが、とある事故に遭い、それから何故か怪力が身についたと同時に極度の不幸体質になった薄幸少女。

個性的な演劇部の中でもまともな部類に入る人間。

怪力と同時に身体能力も色々と上がった。

志貴にほのかな恋心を抱いている。最近シオンやリースバイフェと仲がいい。

琥珀

大学部二年、演劇部、ロボット工学部、薬学研究部所属兼清掃委

員。

遠野家に仕えるほのぼの家政婦さん。秋葉の付き人。

お屋敷では主に料理を任されている。主人である秋葉を誠心誠意
“弄っている”お茶目（？）な人。

メカヒスイを作った張本人。何故か常に箒を持ち歩いている。一
部の人から『マジカル・ドクターアンバー』と呼ばれている。

翡翠 ひすい

大学部一年、演劇部、お料理研究会所属。

琥珀の妹で遠野家に仕えるクールメイドさん。お屋敷では主に清
掃を任されている。

志貴の付き人。主人である志貴に誠心誠意尽くしている。料理は
あまり得意ではない（何故か料理が爆発する）が、調理器具の扱い
は上手い。

いつも無表情だが本人曰く「これは個性です」らしい…
たまに文法の使い方がおかしい。

両儀式 りょうぎしき

大学部一年、演劇部所属。

いつも和服に赤いジャケットを羽織っている。和風か洋風がよく
わからない人。

一応女性だが、中性的な顔立ちと、男性口調であるため男女問わ
ず人気がある。

武器を携帯している学生の一人 ナイフとか…

本人は苗字で呼ばれるのを嫌っている。

きしましづま
軋間紅摩

高等部三年、帰宅部。

その風貌から怖くて誰も彼に近寄らないでいるが、実はとても優しい人。

老け顔のせいで高校生に見えないことを気にしている。

自然に接してくれる演劇部のメンバーに好感を抱いている。

志貴とシキの幼なじみ。昔から無口なことから風貌のせいでよく不良に絡まれ、それを返り討ちにしてきた。そのため、本人が知らない間に番長的な立ち位置になっていた。軽く悟りを開いていたりする人。

レン

初等部六年生、演劇部所属。

無口、無表情で感情を表に出さない。滅多に喋らない（喋れないわけではない）

常に黒い服を着ている。白レンの双子の姉。志貴と深い関係があるらしい（いやらしい意味ではない）

白レン

初等部六年生、演劇部所属。

レンの双子の妹。『白レン』はあだ名で、本名は誰も知らない。レンとは反対に饒舌で感情豊か。いつも白い服を着ている。

運動神経がよく、走ると残像が見える。

ツンデレその2。シキに気がある(?)

シキとは何か深い関係があるらしい(くどいようだが変な意味ではない！)

ありみやこ
有間都子

初等部六年生、演劇部、中国拳法研究会所属。

遠野家の分家筋である有間家の子。昔、志貴が有間家で生活していたことがあり、志貴を「お兄ちゃん」と呼び懐いている。

いつも赤い中国服を着ている。

お兄ちゃんを独占したいお年頃。

部室のネコアルク人形が気に入らないらしい。

ネコアルク

演劇部の部室に大量に飾ってある人形。何故か喋る…ビームが出る…そして飛ぶ。

ネコアルク・カオス

部室に飾ってあるネコアルクの人形の突然変移種。監督その2)

笑)

本人(?) 曰く昔はハリウッドで活躍したり、しなかったり…
人形なのに喋る…ビームが出る…やっぱり飛ぶ。若干煙草臭い。

ロア(ミハイル・ロア・バルダムヨオン)

高等部三年(留年三年目、現在四年目に王手がかかっている)
演劇部パシリ

…以上!

白夜「はい!というわけでキャラクター紹介を終わり…」

ロア「ちよつと待てえ!」

天「何ですか?騒々しい…」

ロア「俺の紹介あんまりだろ!何だパシリって!!あと、留年って
なんだ!?俺原作では魔術師だぞ!?頭いいんだぞ!」

天「しょうがないですよ、出席足りてないんですから」

ロア「何で!?普通三年も留年したら学習するだろう!」

白夜「そこは…まあ…アルクエイドにちよつかい出してリンチされ
たり…」

ロア「俺の扱いひどくねえ!」

天「じゃあ、そんなあなたに魔法の言葉を…『愛ユエニ』」

ロア「何処の　ビー教だ！！作品違うだろ！！」

天「ああもう、五月蠅いですねえ…私がこのスイッチを押したらあなたの出番を無くすこともできるんですよ？」

どこからともなくスイッチを取り出す天。

ロア「うおおおお！！？やめろおお！！原作でさえあんまり活躍できてないのに！！」

天「じゃあ、文句はありませんね？では、次の話から始まります！」

ロア「うおおおお！！納得いかねええ！！」

演劇部の日常

ここは型月市にある私立型月学園演劇部：通称『ワラキアの夜』

今日もズエピア監督による指導のもと、皆稽古に勤しんでいます。

ワラキア「カットカットカットカットカットカットカットオー！」

カオス「キャーキャーッ！…じゃなくて、カッッッ！ッオー！」

余分な掛け声が聞こえましたが気にしないでください。

ワラキア「弓塚くん！何回目かね？何故君はそこで転ぶんだ！？」

さつき「あーう…すいません…」

志貴「監督、もう15回目ですよ？少し休憩しませんか？」

琥珀「みなさん、お茶が入りましたよ」

ワラキア「ふむ…では休憩にしよう。…だが、その前に…ロア君！その照明の角度をあと13・5度右にしてくれ！」

蛇^{ロア}「わかるかああー！！そんな細かい角度、どうやって測るんだ！？」

ワラキア「分度器くらい持っているだろう?」

蛇「持ってねえよ!! 持ってもあれじゃ0・5度まで測れねえよ!!」

ワラキア「まったく、だから君はいつまでも“パシリ”なのだよ。ああ…それと、照明のバッテリーが切れそうなので充電しておいてくれたまえ」

蛇「ちくしょおお!!」

バチバチバチバチ (ピアニスト放電中)

琥珀「皆さん今日もお疲れ様です」

さつき「琥珀先輩ありがとうございます」

志貴「何回もやり直したから疲れたよ」

さつき「あう…ごめんなさい…」

志貴「あ、いや、別にそういう意味じゃあ…」

アルク「ちょっと志貴、何さっちゃん泣かせてるのよ!」

志貴「ええ!? いや、その…」

シオン「まったくです、志貴。さつきに謝ってください」

志貴「えっと…ごめんな、弓塚さん…」

さつき「い、いいの…私が失敗ばかりしてるから…」

シオン「そんなに気にしないでください。台詞はちゃんと言ってるんですから…」

ワラキア「シオン！疲れていないかね？よければ私がマッサージを…」

シオン「いりません」

ワラキア「そう遠慮せずに…」

バキューン！バキューン！

シオン「近づかないでください、この変態！」

ワラキア「いつもながら照れ隠しが激しいな。皆の前だからといって遠慮する必要はないのだよ？…さあ、お父さんの胸に飛び込んできたまえ！」　滑り込みながら

シオン「バレルレプリカ・オベリスク！！」

ズガアアアアン！！

Last Arc Finisshu

全員『（今、何か聞こえたような…）』

シオン「ふんっ…」

シエル「すみません、遅れました」

志貴「あ、シエル先輩。遅かったですね？」

七夜「俺もいるぞ？」

志貴「ああ、兄貴いたんだ…」

シエル「委員会の仕事がありまして…」

志貴「（頬つぺたに血がついてるけど…何があっただろう…）」

シエル「ところで…監督は何処に…」

カオス「呼んだかね？」

シュツ、ドスッ！

シエル「貴方じゃありません」

七夜「あそこでのびてるアレじゃないのか？」

シエル「……一応聞きますが…何がありました？」

さつき「えっと…いつものあれ…です」

白レン「七夜」

七夜「…ん？」

白レンが残像を残す速さで七夜にダイブ

白レン「遅かったじゃない！」

七夜「ぐはあ！？……おい、マスターさんよ…苦しいんだが？」

志貴「（ああ、今日はデレてるな…）」

琥珀「お二人とも、お茶入りましたよ」

シエル「ありがとうございます」

七夜「わるいな」

琥珀「えっと、七夜さんが緑茶で…シエルさんが『カレー茶』です
ね」

志貴「カレー茶！？」

翡翠「味覚をおかしいです…」

志貴「翡翠、ちょっと文法おかしいよ？」

シエル「美味しいですよ？皆さんもどうですか？」

さつき「えっと…遠慮します…」

アルク「シエル、あんたそんなの飲んでるの？」

シエル「貴女にはあげませんよ？この吸血姫」

アルク「別にそんなの欲しくないし」

シエル「“そんなの”！？貴女、カレーを馬鹿にするんですか！？」

志貴「まあまあ、二人とも落ち着いて…」

二人「志貴（遠野君）は黙ってて（ください）！！」

志貴「は、はい…」

ワラキア「諸君、そろそろ練習を再開しよう」

志貴「あ、復活した」

シオン「チツ…浅かったか…」

シオンが何か物騒な言葉を呟いていたが皆聞き流した。

ワラキア「では、現在練習中の劇『シンデレラ』のシーン32、シンデレラが深夜の鐘を聞いて城から逃げるシーンだ」

ちなみにシンデレラ役はさっちゃんこと、弓塚さつき（はまり役）である。

意地悪な姉は秋葉とシエル、母親役はアルクエイドである。
魔法使いは琥珀、王子役は志貴だ。

シエル「皆さん、準備はいいですか？」

さつき「今アルクエイド先輩が着替えに行きました」

全員「！！！？？」

姫アルク「皆、待たせたな…」

全員「はっ！！」

姫アルク「久しくこのような衣装を着ていなかったのにな…少々手間取った。許すがよい」

全員「Yes My Princess！！」

シエル「…はっ！？私は何を！？」

蛇「おお！あの姿は久しぶりだ！」

ちよつとそこの蛇さん、気持ち悪いですよ？

蛇「…む？ 今何か馬鹿にされたような…」

ワラキア「では、階段を降りるシーンから…弓塚君、次は転ばないでくれたまえよ?…正直、15回も階段から転んだのに怪我をしていないのが不思議でたまらんよ…」

さつき「は、はい!」

七夜「たしかに…何でだ?」

さつき「転んじゃダメだ転んじゃダメだ転んじゃダメだ転んじゃダメだ…」

ワラキア「そこ!某有名な凡人型決戦兵器の初号機パイロットのような言い回しをしない!」

ガラガラ 扉が開く音

式「しゝあわゝせはゝ歩いゝてこゝないゝ…」

一同「!?!?!」

都子「式お姉ちゃん…流石に狙いすぎだと思っな…」

式「…?何のことだ?というか…オレ、今変なこと口走らなかったか?」

ワラキア「コホン…何はともあれ、始めよう」

さつき「は、はい!」

ワラキア「では、アクション！」

ワラキア「よし、今日はここまでとしよう。諸君、ご苦労だったね」

志貴「ふう、やっと終わった」

シオン「最後はちゃんとスムーズにいましたね」

さつき「緊張しました」

ガラガラッ

青子「はーい！皆お疲れー！」

志貴「あ、先生！」

青子「差し入れ持ってきたわよー！」

アルク「さっすがブルー！気がきいてるわー！」 着替えた

琥珀「あ、じゃあお茶入れますねー」

シオン「私も手伝います」

レン「……………（挙手）」

琥珀「レンさんも手伝ってくれるんですか？」

レン「……………（コクリ）」

七夜「なあ、疑問に思っただが…」

さつき「…はい？」

七夜「何で最後にガラスの靴を履くのがシンデレラ役の弓塚じゃなくて…メイド役のシオンなんだ？」

秋葉「あ、それは私も気になってました」

シエル「それは…まあ、監督が“アレ”ですから…」

七夜「ああ…そうか」

ちなみに、監督は飽くまでオリジナリティだと主張しています。

シオン「志貴、お茶が……………あっ」

志貴「危ない！……………大丈夫か？シオン！」

シオン「あ…は、はい／／／／／」

ワラキア「キイヤアアアアアアアアア！…！」 描写できない顔

式&mp;七夜「…っ！！」 ナイフを構える

志貴「う、うわぁ！？」

ワラキア「シイオオオン！！遠野君！離れたまえええ！！」

志貴「うわぁ！？」

さつき「か、監督落ち着いてください！」

ワラキア「離れたまえ、弓塚君！シオンが、シオンがどこぞの一級フラグ建築士にいい！」

志貴「ええ！？」

シエル「仕方ありません…皆さん監督を止めますよ！」

志貴「わかりました、先輩！」

さつき「え！？」

シエル「カルバリア・デスピア！」

志貴「え？それはやり過ぎ…」

リーズ「カルバリア・デイスロアー！」

志貴「リーズ先輩まで！？」

秋葉「骨まで燃やし尽くして差し上げます！」

志貴「秋葉まで!?!」

秋葉「ノリは大切ですよ、兄さん！」

志貴「え?あ、うん…」

シオン「バレルレプリカ・フルトランス！」

都子「究極奥義〜！」

七夜「極死・七夜！」

レン「……………」ウタカタ発動

白レン「…ふふ（黒い笑顔）」同じくウタカタ発動

ネコ「お!スク水だ！」

翡翠「暗黒翡翠流〜」

琥珀「出番アルね〜！」

翡翠「御奉仕推奨破！」

琥珀「ホア〜！」

式「死が…オレの前に立つな！」

志貴「これがモノを殺すということだ！」

アルク「星の息吹よ！……肉片も、残さない！」

さつき「監督ー！！」

青子「あ、なんか楽しそうね！私も混ぜて」

さつき「青子先生！？」

青子「スヴィア・ブレイク・スライダー！！」

A r c D r i v e F i n i s s h u

さつき「とどめ刺した！？」

ワラキア「……」返事がない、ただの屍のようだ

シオン「さあ、皆さん帰りましょう」

アルク「賛成ー！」

ワイワイ、ガヤガヤ…

バタンッ

ネコ「あぶね、巻き込まれるところだったぜ」

蛇「ま…巻き込まれた…なん…で…俺も…ガクッ」

カオス「我輩…も…ガクッ」

正面玄関

志貴「ふう…今日も大変だった」

軋間「遠野か…」

志貴「あ、軋間さん」

軋間「今日は帰りが遅いな…」

志貴「ええ、部活で色々ありまして…」

軋間「……そうか」

志貴「軋間さんは何でこんな時間まで？」

軋間「…少し、な」

志貴「（ああ…また絡まれたんだな…）」

軋間「…気をつけて帰れ」

志貴「あ、はい」

七夜「よう、軋間。今帰りか？」

軋間「…ああ」

白レン「……………」睨んでる

軋間「…むう（汗）」

七夜「さて、じゃあそろそろ帰るか」

志貴「ああ、じゃあまた明日な、軋間さん」

軋間「…ああ」

秋葉「あ、兄さん！」

志貴「ん？秋葉、待っててくれたのか。琥珀さんと翡翠は？」

秋葉「あの二人は夕食の準備がありますから先に帰りました」

志貴「そっか…じゃあ、帰ろう…」

トドトドトド

アルク「しゝき〜!」

志貴「ん?...ぐはっ!？」

アルク「一緒に帰りましょう、志貴!」

志貴「アルクエイド...く、苦しい...」

秋葉「ちよつと、アルクエイドさん!兄さんが苦しがつてるじゃないですか!」

アルク「あ、妹いたんだ」

秋葉「最初からいました!だいたい...」

ワーワー、ギヤーギヤー

志貴「はあ...まったく...」

そんなこんなで型月学園演劇部の日常は続いていくのでした...

次回へ続く...のか?

演劇部の日常（後書き）

天「この度は、私立型月学園演劇部をお読みいただき…」

一同「ありがとうございます！」

天「えゝ、思いつきから初めましたこの小説ですが…これから白夜と協力してなるべく早く更新できるようにしますので皆さん応援をどうぞよろしく願います！」

ロア「ちよつと待て…」

天「何ですか？蛇さん？」

ロア「やっぱり俺の扱いが酷くないか？」

天「だって…ねえ？」

一同「…うんうん」

ロア「え？何が？」

一同「…うん」

ロア「いや、だから何が！？」

天「まあ…ぶつちやけ需要がありません貴方は…」

ロア「はあ!？」

天「本編でパツとしませんから」

ロア「え? ちょっ…」

天「まあ…それは置いて…」

ロア「おい!」

天「これからは部員一人一人にスポットをあてていきたいと思えます。最初はシオンからです!」

シオン「わ、私ですか!？」

ワラキア「当然だ、私の娘…」

バキューン!

シオン「五月蠅いですよ…」

天「では…読者の皆さん。過度な期待はせずにお待ちください!」

また近いうちにお会いしましょう。

「白夜……あれ？私の出番は？……まさか……乗っ取られた！？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3253p/>

私立 型月学園演劇部

2010年12月10日02時45分発行